

チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 91 2012年12月15日発行
郵便振替口座 「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316

今年もご支援を ありがとうございました



6月～7月 子どもたちの保養
ウクライナ&ベラルーシ



5月 チェルノブイリ被害者家族の保養 ベラルーシ

◆2013年チェルノブイリ救援カレンダーは完売しました！
ご購入いただいたみなさま、ありがとうございます。

チェルノブイリ 27 周年救援イベント

2013年4月8日～10日 チェルノブイリと福島・子どもたちの絵画展
(文京シビック 展示室2)

2013年4月26日 講演会 チェルノブイリと福島 (文京シビック 小ホール)

2012 年の支援活動報告

今年も皆様の募金のおかげで支援活動を行うことができました。
ほんとうにありがとうございました。来年もご支援をよろしく
お願いいたします。



	円	内訳
ウクライナ	医薬品代	808,800 内分泌研究所：医薬品、放射性ヨード体内残存量測定器
	運営費	421,600 「チェルノブイリ子どもたちの生存」
	特別保養費	998,280 汚染地域の病気の子ども
	合計	2,228,680
ベラルーシ	医薬品代	1,920,218 「困難の中の子どもたちへ希望を」「チェルノブイリのサイン」「希望 21」
	運営費	805,025 「困難の中の子どもたちへ希望を」「チェルノブイリのサイン」
	年間保養費	3,977,000 「希望 21」：汚染地域の子ども
	特別保養費(子ども)	1,187,515 甲状腺、その他の腫瘍病の子ども
	特別保養費(家族)	359,387 チェルノブイリ被害者家族(両親のどちらかが甲状腺がんの手術を受けた家族)
	合計	8,249,145

ウクライナ 内分泌研究所



2012 年 10 月以降に行った支援活動 2 件の報告です



今年 2 月、事務局スタッフが内分泌研究所を訪問。前年度に支援した医薬品の在庫状況、医薬品を渡した患者のリストを確認しました。放射性ヨード治療を行う病棟の廊下には、旧式の体内残存量測定器が置かれていました。チェルノブイリ事故後、外国の NGO から贈られたものを現在まで使用しているという説明でした。以下の要望を受け支援を決定しました。

◆カルシウム剤（ニコメド社）6250 ドル

◆体内残存量測定機（ウクライナ製）3750 ドル

~~~~~

日本のみなさまへ

内分泌研究所の放射線核種診断・治療部

門で観察下にある甲状腺がん患者に、毎年貴重なご支援いただきまして、心からお礼を申し上げます。

2012 年 1 月 1 日から 9 月 12 日まで、247 人の患者（1968～1986 年生まれ）について甲状腺がんの治療が行われました。2056 人の患者に対し、血液中の甲状腺ホルモン（TSH）検査と L チロキシンの投与が行われています。当病院では、1996 年から、3250 人（1968～86 年生まれ）の患者の観察を続けています。すべての年代の患者数では 4259 人です。550 人の女性が健康な子どもを出産し、そのうち 26 人の女性が二人目の子どもを出産しました。

昨年ご支援いただいた甲状腺ホルモン剤

L チロキシンの使用状況。2012 年 9 月 1 日時点で、9394 箱のうち 2069 箱が、215 人の患者に渡されました。

甲状腺がんの手術を受け、血液中にカルシウム不足を補うためのカルシウム剤のご支援をお願いします。また、放射性ヨード治療を受けた患者の体内残存量を測定することは大変重要です。現在使用している測定器は老朽化しているため、新たなご支援をいただければ幸いです。

内分泌研究所 所長 N・トロニコ  
放射線核種診断部門 副部長 V・マルコフ

### ベラルーシ 慈善団体 「困難の中の子どもたちへ希望を」

腫瘍病の子どもを会員にもつこの団体では、毎年年末に、子どもたちの為のクリスマス会を開いています。地元の企業などからの寄付は大変少なく、会の開催が危ぶまれていました。年に 1 度のこの会は、長い入院生活を過ごした子どもたちにとって、友だちを見つけることもできる大切な場にもなっています。そこで、クリスマス会の開催費（お菓子・果物・ぬいぐるみなどのプレゼント代、ほか）として、1000 ドルの支援を行いました。

~~~~~

子ども基金が支援したものは、現地団体・病院が物品を購入後、領収書が提出されます。子ども基金は、書類上のチェックと、実際に事務局スタッフが現地を訪問した際に、現物の確認を行っています。



2013 年支援の予定

＜ベラルーシ＞

児童健康回復センター「希望 21」:放射能汚染地域に暮らしている子どもたちを、年間を通して受け入れています。子どもたちの保養費用の一部を支援します。「腫瘍病の子どものための特別保養」「甲状腺ガンの手術を受けた親とその子どもの特別保養」をこのセンターで実施します。

慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」:この団体を通して特別保養に参加する子ども・家族が選ばれます。ベラルーシの里子・奨学生への支援金の受け渡し窓口となっています。会員の子どもの薬代、スタッフ給料と事務所維持費の一部を支援します。

慈善団体「チェルノブイリのサイン」:団体はすでに解散しましたが、里子への支援金受け渡しや、元会員たちの「希望 21」への保養は引き続き行われるため、スタッフ 2 名分の給料と通信費を支援します。

＜ウクライナ＞

病院「内分泌研究所」:甲状腺の病気の患者の薬代を支援します。

慈善団体「チェルノブイリ・子どもたちの生存」:この団体を通して特別保養に参加する子どもが選ばれます。ウクライナの里子の支援金の受け渡し窓口となっています。スタッフ給料と事務所維持費の一部を支援します。
「汚染地域に住む病気の子どものための特別保養」:クリミア半島の子どもサナトリウムで実施します。

2012年6月 家族訪問(2) ウクライナ

報告 佐々木 真理

ウクライナのジトーミル州ナロジチ地区に住む子どもたちを訪問しました。チェルノブイリ事故後、汚染がひどいことが分かった後も移住が行われなかったナロジチ地区では、大人にも子どもにもいろいろな健康被害が続いています。

~~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*

V・ウラディスラフ 2010

年生まれ ジトーミル州

ナロジチ市

脊椎の筋萎縮症（中央神経システムの病気）。母親（1970年生まれ）「息子は座ることもできず、横になっているだけです。キエフの放射線センターの専門医にかかっています。そこでマッサージやリハビリ治療を受けています。それらは無料です。その施設はまるでサナトリウムのようなようです。よい対応をしてくれますが、根本的な治療法はないと言われています。ナロジチには専門医がいないため、私がマッサージをしています。うちの4人の子どものうち、ウラディクが一番下の子どもです。子どもが生まれると血液検査などいくつかの検査をすることになっています。また、子どもたちは甲状腺の検査を毎年受けています（「これはアメリカのNGOプロジェクトです」と地元の医師が説明した）。他の3人の子どもたちの健康に大きな問題はありません。この辺りの畑の野菜の放射能は基準値以下だから大丈夫だと言われています。ですからそのまま食べています。森のきのこは必ず放射線値を調べてもらいます。でもなるべく子どもには与えないようにしています。ベリー類も、どこで採れたものか必ず知る必要



があります。どこのあたりが汚染されていて、どのあたりが比較的美丽なのかを、私たちは知っていますから。息子の病気の原因は、はっきりわかりません。もしかしたら遺伝的なものか、あるいは、放射能のせいかもしれません。私が勤務している学校には500人の生徒がいますが、全く健康な子どもはとても少ないと思います。みんな体が弱いです。がんの子ども、1人は知っています。

日本からの支援はとてもありがたいです。食べもの、果物、ビタミン剤などを買うことができますから。私は甲状腺結節があります。夫（1973年生まれ）は4年前に甲状腺がんの手術を受けました。甲状腺を全摘出して、ホルモン剤を服用しています」

M・エフゲーニヤ（1998年生まれ）

ジトーミル州 ナロジチ地区

先天性大脳発達障害。右耳形成不全（耳の形そのものや、耳の穴がない）。腎臓発達障害。知的障がい。歩行困難。てんかん。母親（1977年生まれ）「娘は今、腎臓の薬と、痙攣予防の薬を服用しています。生まれた時は、右耳がないということ以外は問題がないと言われていました。耳は後で形成手術をすればよいだろうと。でも成長するにつれて麻痺がおこるようになりました。年に1度は必ずキエフの

病院に行きます。数週間入院することもあります。キエフの病院での診察、治療はすべて有料です。地元の病院は無料ですが、このような病気の子どもを受け入れる専門病院はありません。

初め、子どもの病気は遺伝かもしれないと言われましたが、調べてみたらそうではないとわかりました。私は、チェルノブイリの放射能と関係があると思います。二人目の子どもを産むのは怖かったけれど、決心しました。下の子どもは健康上の大きな問題はありません。日本の支援はとても感謝しています。おかげで必要な医薬品を買うことができます。

いつもうちの畑でとれた野菜を食べています。森のきのこやベリーは子どもには与えていません。私自身は、甲状腺に問題があり、ホルモン剤を服用しています。キエフの病院で定期検査を受けていますが、交通費もかかりますし、検査費用もかかります」



エフゲーニヤ



マクシム

S・マキシム (2007年生まれ)

ジトームル州ナロジチ地区

(チェルノブイリ原発から約 70 キロの村)

先天性大脳発達障害。痙攣予防の薬を服用。医薬品の費用は年間 750 ドル。チェルノブイリ事故による病気と認定されている。言葉を話せず、寝たきり。よく痙攣が起こる。母親は 1986 年生まれ。教師として働いていたが、現在は子どもの世話をしているため働いていない。ブルーベリー販売の仲介の仕事をして稼いでいる。マクシムの 2 歳年下の弟の健康に問題はない。

村の医師 「この村では食べ物の放射能は基準値以下とされているから、調べられていません。もし調べるなら、オブルチ市まで行かないと機械はありません。でも、もう住民はみなあまり気にしていないと思います」チェルノブイリ事故後にこの村の住民の病気は増えましたか？という質問に対しては「この村は元々住民が少ないから、病気が増えたとは言えません」という答えでした。

ナロジチ市の小児科医 M・

エレナ 「体内放射能値を調べたい人は、無料で検査を受けられる。値が高ければさらに検査。できれば 1 年に一度は調べた方が良くと思う。ナロジチやボザール等の町には、先天性の病気の子どもが多い。子どもはみんな甲状腺の問題がある。大人は胃や他の臓器 のがんが多い」

ナロジチからこの村に向かう途中、広い草原にコウノトリの群れを目にした。同行したナロジチの医師エレーナによると、自然が美しくブルーベリーが豊富な森をもつこの村は、ソビエト時代には保養地だったそうだ。しかしチェルノブイリ事故後、放射線汚染地域となった。エレーナは、「ブルーベリーがどんなにたくさんあるか見せたいから、車を少し停めてほしい」と運転手に言った。車道から森に入るとすぐ、ブルーベリーが群生していた。エレーナと、同行したキエフの慈善団体のスタッフは、そのブルーベリーを採って食べ始めた。驚いて、「ここは汚染地でしょう？」と聞くと、「そうだけど、その中でもここは比較的安全だと知っているから大丈夫」とエレーナ。「それにビタミンを摂らないと」とキエフから来た女性は答えた。

～*～*～*～*～*～*～*～*～*～

ウクライナの慈善団体「チェルノブイリの子どもの生存」は、チェルノブイリ原発労働者とその家族が住んでいたプリピャチ市の避難民によって設立されました。当初は、外国からの支援物資を避難民たちに渡したり、避難民の子どものための文化教室を開く活動に重点を置いていました。現在は、ウクライナの汚染地域の子どもたちの支援に重点を置いています。「チェルノブイリ子ども基金」の他、イタリアやスペインの慈善団体と協力関係にあり、汚染地域の子どもたちをそれらの国へ保養させています。スタッフの1人、ガリーナは、元チェルノブイリ原発労働者で、夫は現在もチェルノブイリで働いています（4日チェルノブイリで働き、3日キエフの自宅に戻るという生活）。夫は高血圧があり、薬が欠かせないといっています。

P・ガリーナ キエフ市（「チェルノブイリの子どもの生存」スタッフ）

「私はチェルノブイリ原発の4号炉で働いていました。専門は化学で、原発内の水を測定して、それをどこに送るか、という仕事でした。今思い出しても、原発での仕事はとても興味深かったです。事故後、職員は血液を調べられました。私は気を失い病院へ運ばれました。ひどい被曝をした人たちはみんな死んでしまいました。核技術が専門の夫は事故後、「何も心配ない、何も怖がることはないんだ」と言っていました。彼は、もうそんなふうに頭に叩き込まれてしまっています。私が病院から戻ってうちで倒れたときも、「おまえは一体、何をふざけているんだ」と言ったのです。息子はとても具合が悪い時期がありました。治してくれると言うなら何でも信じて、祈祷師のような人を頼ったこともありました。私は甲状腺と婦人科の手術を受けました。甲状腺ホルモン剤が欠かせません。汚染地の人たちは森でとったベリーをキエフで売っています。それを買って食べたら、みんな体の中にとりこまれて、ストロンチウムなんてずっと残り続けるのです。生き延びるには、確かな知識とまともな神経、つまり冷静さが必要です。4号炉で働いていた私から生まれた息子は、子どもの頃病弱ではあったけれど、今は医科大学で学んでいます。ここまで育ってくれたことは奇跡だと思います。神様に感謝するしかありません。同じアパートに住んでいる人たちはみんなプリピャチ市からの避難民です。近所の家族の17歳の娘さんは、最近白血病を発病しました。一体いつまでこういうことが続くのだろうかと思います」



里親のページ

里子の家族からの手紙

◆ディーマは大学3年生を終了するところで、今期末試験期です。面接試験と4科目の筆記試験にはパスして、あと1科目残すだけとなりました。その後は実習がありますが、もう4年生に進級したと言えるでしょう。実習の後、うまくいけば、服を買うくらいの収入を得られる仕事に就けるでしょう。二男ヤロスラフは今年、無線工学の大学に入りました。半年の勉学は大変でした。心臓の病気があり、勉学は遅れ、2教科は受けられませんでした。通信教育に移るかもしれません。これが、私たちの近況です。感謝と、あなたのご多幸をお祈りします。(ベラルーシ ゴメリ州カリンコヴィチ市) ◆私たちのアーニャを助けてくださっていることに、心よりお礼を申し上げます。アーニャはよくあなたのことを思い出し、あなたの写真をながめています。アーニャはもうすぐ5年生になります。6月15日から、ミンスク郊外のビレイカにあるサナトリウムに保養に行きます。ご支援に深く感謝申し上げます。ほんとうにありがとうございます。(ベラルーシ ゴメリ州カリンコヴィチ地区)

甲状腺手術後の若者の死

以前、里親から支援を受けていたベラルーシの青年ジェーニャ(29歳)が、10/28に亡くなりました。ミンスク市に生まれ、子どもの頃甲状腺がんの手術を受けた彼は、子ども基金の招待でベラルーシのサナトリウム「希望21」で毎年保養をしました。その後、大学で経済を学び、ミンスク市内の銀行に勤務。親から独立し、アパ

ートで暮らしながら将来の計画をたてていました。甲状腺ホルモン剤を服用し、定期検査もきちんと受けていました。しかし、突然自宅の玄関で倒れ、亡くなりました。心不全でした。手術で甲状腺を切除した患者には、人工的なホルモン剤が必要です。しかし長期に服用することでさまざまな副作用もあります。心臓への負担もその一つといわれています。

ジェーニャが所属していた慈善団体のスタッフ「彼がこのような突然亡くなることを、誰も予想していませんでした。彼自身も、こんなふうに突然命が終わるとは思っていなかったはずです。家族も、彼を知っている私たちもみんな、悲しみにくれています。なぜこのようなことになってしまったのか。これ以上言葉が何もありません」

「希望21」で一緒に保養をして、その後も交流が続いていた友人たちも、私たちに知らせてきました。「僕たちの友人、ジェーニャが亡くなりました。もう彼は僕たちと一緒に過ごすことはありません」(イワン29歳)「結婚して自分の家族をつくる、そのような人生を、彼は生きることができなかったのです。私たちはみんな深い悲しみの中にいます」(ナターシャ29歳)

1998年、初めて「希望21」を訪れ、子どもたちに少林寺拳法教室を開いた。ジェーニャは生徒の一人だった。その後毎年、「希望21」で顔を合わせていた。いつも多くの友人に囲まれていた彼の人懐っこい笑顔を忘れることはできない。(事務局 佐々木)

里親制度について詳しくお知りになりたい方は事務局へお問い合わせください。資料をお送りします。

報告会 2012 年夏 子どもたちの保養 ～チェルノブイリと福島～

11 月 25 日、JICA 地球広場（東京市ヶ谷）において「チェルノブイリ子ども基金」「未来の福島こども基金」により、子どもたちの保養と現状の報告会を開催しました。都知事選が決まり、衆議院選もか？というなにかと忙しい最中でもあり、また、初めての会場でお客さまがいらして下さるか心配しましたが、当日は 40 人の参加者がありました。足をお運びくださったみなさま、ありがとうございました。

最初に、チェルノブイリの子どもの現状を佐々木真理が報告。次に未来の福島こども基金の津布久賢三郎が福島の子どもの保養の報告をしました。最後に、今年の福島原発震災以来、たびたび開かれている福島での“健康相談会”の様子を黒部医師が報告しました（12 頁をご覧ください）。

参加者アンケートには 16 人の方から回答がありました。一部をご紹介します。●大変興味深かった。チェルノブイリの現在までの影響を考慮し、福島の子どものために早急且つ長期的支援を視野に入れた行動をされていることを拝見しました。私もその都度私らしい方法で参加します。子どもたちが放射能の影響を気にせずに外で友人と遊ぶことはとても大切だと思います。●保養の重要性を初めて聞いて、福島の子どものために早くさせなければいけないと思う。●原発事故被害者の切り捨ては絶対に許されない。何より子どもたちの未来とこれから生まれる子どもを守るのか。●多くの方々が情報を共有し、被害者の支えになれることを期待します。●保養地をもっと多く、広く募集して行ってほしい。個人的にも協力したい人は多い。まず子どもたちを救いたい。●久米島

の現状が聞けてよかった。継続して取り組んでほしい。●放射能汚染がこの先何をもたらすのかを、日本中で議論されず関東以西の人たちが理解していないとも思います。より浸透していくことを願っていますし、同様の事を考えている団体・組織との連携で大きな声になると思いました。●ベラルーシ・ウクライナの厳しい様子をお聞きし心が痛みます。また、福島で避難できずにいる人たちの現状を知り、ますます保養の必要性を覚えしました。出来るところで協力したいと思います。

講演後、福島県いわき市から東京に避難されている Kさんから切実な質問がありました。「今年の 3・11 直後、放射能が拡散している最中に車で避難した。渋滞が著しく何時間もかかった間に被曝したと思う。移動中に 2 人の子どもの鼻血を出したり吐いたりした。今も体調がすぐれない。今後の健康が心配、大丈夫だろうか？」と大変不安な様子でしたので、後日、事務局でお話を伺うことになりました。翌週、子育て中の Aさん（ボランティア）にもご参加いただき、Kさんのお話を伺いました。放射能被曝は環境や体調により、個人差が大きく専門的なアドバイスはできませんでしたが、Kさんは悩みを吐き出したことで少しほっとされたようです。また、関東も一部では汚染されていますから、放射能の心配をされている Aさんと同じ思いを共有できたことはよかったのではないのでしょうか。今後も連絡を取り合っていくことにしました。



「沖縄・球美の里」子どもたちの保養

今年 7 月、沖縄県の久米島町に東京電力福島第一原発事故で被災した子どものための保養所「沖縄・球美の里」が開設しました。球美の里の目的は子どもを被ばく被害から守ることです。毎月 1 回約 2 週間の日程で 50 名前後の母子を受け入れており、11 月には第 6 回目の保養を行いました。チェルノブイリ子ども基金の姉妹団体である未来の福島こども基金も特別後援団体として DAYS 被災児童支援募金とともに球美の里の保養費を支援しています。

いま福島を中心に放射能汚染による子どもの被ばく被害が懸念されています。福島県の行う県民健康管理調査の結果によると、今年 8 月末時点で調査を終えたおよそ 8 万人の子どものうち 1 人から甲状腺がんが見つかりました。また同じく調査を終えた福島市の子どものうち 4 万人のうち 43% に甲状腺のう胞が見つかっています。従来、小児甲状腺がんが 100 万人に 1 人の割合で発症すると言われるほど稀な病気であること、またのう胞が通常 10 歳前後の子どもではその 1% 程度にしか見つからないものであることを考え合わせると、この調査結果からは放射能によって子どもの甲状腺に異変が生じている可能性が疑われます。また甲状腺の問題以外にも被ばくの影響とみられる様々な健康問題を耳にしています。

加えて、被災地では放射能の問題から二次的な健康被害も生まれています。それは放射能の影響で屋外活動が制限されたために、子どもたちの体力低下が起きていることです。例えば、郡山市の公立保育園では屋外活動の時間が 0～2 歳の子どものみで 1 日 15 分、3～6 歳の子どものみで 1 日 20 分と制限されています。また郡山市の公立小中学校では昨年の 5 月から今年の 3 月にかけて屋外活動

が 1 日 3 時間までと制限されていました。その結果、例年にくらべて鉄棒で逆上がりの出来ない子どもや 50 メートル走を走りきれない子どもが目立つという報告があります。3 時間ルールは今年の 4 月に解除されましたが、それにより子どもの外部被ばく線量が増えたという指摘もなされています。被ばく被害を防ごうとして体力の低下が起これば、体力低下を防ごうとすると今度は被ばくが増えるというジレンマを抱えた難しい状況があります。

このような状況を脱するひとつの道として保養への参加があります。実際、球美の里にはそのような困難を抱える母親とその子どもたちが参加しています。球美の里に参加した子どもの中には、期間中にはじめて逆上がりができるようになったり、自転車に乗れるようになったりした子どもたちがいます。また小さい子どものなかには海で泳ぐのが初めてという子もいます。外で走りまわったり、海で泳いだり、原発事故前に当り前にできたことが今は放射能のためにできなくなり、それが子どもの成長の機会を奪っているのです。

被災地に暮らす子どものうち保養に参加しているのはまだごく一部にすぎません。参加を希望しているけれど母親が仕事を休めず、付き添いの必要な小さな子どもを保養に出せないという家庭や、そもそも子どもの保養の必要性を認めない家庭もあります。子どもを取り巻く環境の違いによって、何度も保養に参加できる子どもがいる一方で、一度も参加できない子どもがいるという保養格差の問題も現れています。球美の里では来年度から福島県の自治体と協力して学校単位で保養を受け入れる移動教室の試みを模索しています。それが家庭の事情にかかわらず保養を必要とするすべての子どもたちの参加へとつながり、保

養格差の解消につながることを願っています。

子どもを被ばくから守るのに今からでは遅すぎるということはありません。未来の福島子ども基金は今後もチェルノブイリの経験から学びつつ、将来起こりうる子どもの被ばく被害を未然に防ぐためにできるだけのことをしていきます。

「未来の福島子ども基金」世話人 津布久賢三郎

(※この原稿はニュース用に書き直しましたので、実際の報告とは少し異なりますことをご了解ください。)

「沖縄・球美の里」に参加したお母さんの声をご紹介します。(第6回目の保養は11/7～11/22までの16日間にわたって行われ、赤ちゃん3名を含む子ども25名と大人8名の計33名が参加しました。)

第6回沖縄・球美の里保養プロジェクトに参加させていただきありがとうございます。球美の里を立ち上げてくださった方々、ご支援いただいている関係者全ての皆様に心から感謝しております。心身ともに元気になり、素晴らしさを実感しました。閉ざしていた心がだんだんと開いていくようでした。球美の里はパワースポットでした。皆様からの沢山の愛を受け取らせていただき、私たちは恵まれていることに気がつくことが出来ました。福島県では18歳以下の医療費が無料になったり、病院や、入院施設の整備が進められています。そんなことよりも、発病の予防を考える球美の里のような施設が、子どもたちの健康を守る為に必要であると確信しました。

原発事故以来、拭いきれない不安の中で生活しています。去年は、子どもたちも体調を崩すことが多く、最近では長男が胸を痛がっていました。低線量長期被爆が子どもの健康に与える影響が気がかりで、汚染地域から離れ、免疫力を回復させたいという思いで参加させていただきました。

久米島空港に着いた瞬間から暖かな気候、青い空、美しい海に癒され、心が安心しました。ボランティアスタッフさんたちの顔を見た時、(なんていい顔をしているんだ)と驚きました。素晴らしい方たちが集まって、本当に良くしていただきました。球美の里での生活は、地元のお母さんた

ちが愛情のこもったおいしい食事を作って下さり、元気になっていくのを感じました。子どもたちは外で思いきり遊び、石や葉っぱを拾いながら散歩したり、芝生を裸足で走ったり、洗濯物を気持ちよく外に干せたり、綺麗な空気、大地、水の有難さを今まで以上に感じました。子どもたちが笑顔で遊ぶ姿を見るのがうれしくて、幸せな時間を過ごしました。

理事長の広河隆一さんの、経験に基づいたお話は、まさに真実で心に響きました。[子どもを守ろう]という力強さに感動しました。真実を見つめること、真実を受け止めることが大切なんだと感じました。

滞在中に受けさせていただいた甲状腺検査では、最初に私が「きれいです。良かったね」と言われ、次に6歳と3歳の息子たちには「のう胞が多数あり」という診断でした。やはり釈然としない思いがあり、現実の厳しさを痛感しています。次男に「ぼくはもうすぐ死ぬの?」と聞かれました。甲状腺だけの問題ではなく、様々な健康被害が懸念されます。

出来れば福島を離れたいのですが、夫は祖父から受け継いだ仕事をやめる気持ちはなく、避難するとなると母子だけとなり、家族がばらばらになってしまうことに葛藤があり、実行出来ずにいます。心の中では福島県に住み続けて大丈夫なのか?という思いがあります。

現在では球美の里が第二の故郷の様に感じています。久米島の方々の思いやり、受け入れて下さる心にも感謝しています。とても素晴らしい所でしたので、多くの福島の子供たちが球美の里を訪れて元気になって欲しいと望んでいます。理想としては半年に一度くらい訪れ、健康を維持出来るようにしたいです。

今後とも多くの皆様の継続的なご支援を必要としています。どうかご協力お願い致します。私も自分の出来る支援金集めを始めたいと思います。そして子どもたちの明るい未来をあきらめることなく想像して創造していきたいです。

(阿部重実 福島県いわき市)

販売品のご案内

収益は子どもたちの支援に！

おかげさまで、2012 年度カレンダーは完売いたしました。みなさまのご協力に感謝いたします。事務局では他にも下記の品物を販売しています。クリスマスや新年のプレゼントなどにもご利用下さい。

ポストカード

「いのちの輝き」 6 枚組 広河隆一写真
500 円 10 セット以上 1 割引き



書籍

★「ニーナ先生と子どもたち」 1,300 円
広河隆一著・写真（小学館）“日本語版”
チェルノブイリ事故により放射線汚染地域となった学校のニーナ先生、病気の子もたち、自然界の異変、人が住めなくなった村など、被災地の様子を、写真を通して伝えています。

★「生きていたい！」（在庫僅か）



絵と詩。この本の中の絵は、2013 年カレンダーに使われています。

1,600 円 チェルノブイリ子ども基金編（小学館）チェルノブイリ事故当時、被害にあった子どもたちが描いた

★「写真記録 チェルノブイリ消えた 458 の村」

8,000 円 広河隆一著（日本図書センター）
放射能汚染により人の住むことができなくなってしまった村々の貴重な写真記録集。

CD

★CD「消えた故郷・生命の輝き 2」ナターシャ・グジー（子ども基金 制作）2,000 円

チェルノブイリ 15 周年救援 CD アルバム

★CD「セルツェ」ナターシャ・グジー（音楽センター）2,500 円

マトリョーシカの小物



★マグネット：縦 6cmx 横 4 cm

★キーホルダー：縦 4.5cmx 横 2.7 cm（人形本体の大きさ）

各 1 個 500 円。色・柄はお任せください。

~~~~~

【ご注文方法】①住所 ②電話番号 ③氏名  
④希望品名と数量を明記の上、郵便・FAX・

Eメールでお申し込みください。子ども基金のホームページからもお申し込みいただけます。

## 【お支払い方法】

振込用紙を同封しますので、品物が届きましたらお振込みください。小額の場合には切手でのお支払いも可能です（封筒に金額分の切手を入れてお送りください）。※別途送料がかかります。（物販情報は子ども基金のホームページ“最新情報欄”にも一部写真入りで紹介しています。）



## 福島の子ども相談会を通して見えたこと

2011年6月から始まった、福島市での子ども健康相談会には、いろいろ教えられました。

当初から2回くらいは、希望者も多く、福島から避難すべきか留まるか迷っていた親たちが来ていましたが、その人たちには仕事のある父親を残してでも、子どもと母親はすぐ避難しなさいと背中を押すだけでしたが、夏休み明けの9月は違いました。避難したくてもできない母親の相談が中心になったのです。父親の仕事、家のローン、家にこだわる親との確執、中学、高校生の友達と別れるのは嫌、給食や校庭の基準値などのことを言うと、周りから白い眼で見られることなど。悩みを聞く場になったのです。そして次第に心理カウンセラーや弁護士までが係わらざるを得なくなったのです。そして今は、多くの人はあきらめて、避難できない現実の中で、何も感じない放射線のことを、政府や県の言う「汚染は低いから大丈夫」という宣伝に乗らざるを得なくなっているのです。福島県が全県民を対象にした「基本調査」の回収率は2012年3月で21.8%と低く、現在でも避難希望者は40~50%と言われています。避難という言葉も移住という言葉に替わり、不安を持ちながらも、自力ではどうすることもできずに暮らしているのです。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＊＝＝＝＝＝＝＝＝＝

県は18歳以下の子どもの甲状腺の検査を開始しましたが、今年一人甲状腺がんが見つかりました。県立医大は事故とは関係ないと言っていますが、チェルノブイリの経験からは、これからだんだん見つかる子どもが増えて行くでしょう。そしてよほど増えない限り、事故のせいと認定されません。強制避難地域の基準もチェルノブイリの経験を受け継がず、未だに年間20ミリシーベルトで、チェルノブイリでは、避難勧告地域や放射線管理地域になっている所を、福島県にあてはめると3分の2位になるのではないのでしょうか。国際的には東京まで汚染されていると思われています。千葉、東京の一部は汚染されています。それ現実

です。オリンピックでの瓦礫バッチ

事件は報道されていませんが、国際的には公然化しています。三陸の瓦礫から作ったバッチを野田総理が選手団の壮行会の時に全員に渡し、オリンピックの入場式につけて行進したことが判り、日本の選手団だけ一周で出されてしまったのです。各国のロイヤリティの人々の前を通過させられなかったのです。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＊＝＝＝＝＝＝＝＝＝

私は、どうしても避難できない人たちをなんとか支援しようと頑張ってきました。

「未来の福島こども基金」を作り、まずは食品の放射能を測定する市民放射能測定所に測定器を贈呈し、立ち上げ、次いでその内の2か所に内部被ばくを測定するホールボディカウンターを贈呈しました。それが市民放射能測定所の各地での開設と国からの援助を得て、県の測定所やホールボディカウンターの導入に導きました。その先駆的役割は終わり、次に始めたのが、恒常的な保養施設の建設でした。これもチェルノブイリ支援の経験を生かし、広河隆一さんが編集長の『DAYS JAPAN』との共同で計画しました。

ベラルーシの経験で、24日間の保養で20%の内部被ばくのセシウムが減少することが判っています。この保養を福島の子どもたちにさせたいのです。それが今「沖縄・球美の里」で実現しています。規模も施設もまだまだ小さく、大きくしたいのですが、現状での運営も募金に頼っています。運営だけでも大変です。どうかわずかでもご支援をお願いします。避難したくてもできない子どもたちのために。

黒部信一：すずしろ診療所所長 小児科医師

黒部信一のブログ<http://kurobe-shin.no-blog.jp/>



\*\*\*\*\*

この原稿は、2011年11月25日に行われた報告会「2012年夏 子どもたちの保養～チェルノブイリと福島」（8頁ご参照ください）の中で、黒部さんがお話しされことをご本人にまとめていただきました。



# ふくしま便利

2012年10月6(土)～8日(月)、さらに、11月23(金)～25日(日)にかけて南相馬市に行き、住民の方による環境放射線量モニタリングプロジェクトに参加いたしました。東京の世話人の呼びかけに20～30人ほどが集まり、その約半数は、新宿からレンタカーにて、現地まで行きました。東京、神奈川、千葉、遠くは奈良、山形からの参加もありました。

宿泊場所は「岩屋寺(がんおくじ)」というお寺で、無料で泊めていただきました。往路、二本松で食事をした時は、 $0.5\mu\text{sv/h}$ を超えていて、千葉県いすみ市(私の居住地)の10倍は軽く超えていることを身を持って実感しました。子どもたちも住んでいましたし、妊婦さんも歩いていました。

南相馬市のモニタリングでは、私は山の中の観測を割り当てられ、地元の方と、山を登りました。放射能さえなければ、素晴らしいトレッキングで、木漏れ日にうっとりしましたが、流石に深呼吸をする気にはなれませんでしたし、疲れたからと言って、腰を下ろす気にもなれませんでした。一番低くて $0.4\mu\text{sv/h}$ 、山の麓が $1\mu\text{sv/h}$ 、上に行くにしたがって線量は上がり最高 $2\mu\text{sv/h}$ を超えました。動物の姿はなく、5時間あまりの計測で目にした動物は蛇1匹でした。

時折ホットスポットなのか、 $3\mu\text{sv/h}$ とか $5\mu\text{sv/h}$ になり、カウンターが鳴り響きました。主な計測器は日立アロカです。そのほかにも参加者個人が持ち込んだ機器がいろいろとありました。一緒に、機器は鳴り響いていました。私が持参したのは、事故直後ネットで購入した中国製ですが $2.5\mu\text{sv/h}$ 以上になると、警告音が鳴るように設定していましたが何度か鳴ったので、びっくりしました。その時は、 $4\mu\text{sv/h}$ になっていました。

2回目のモニタリングでは、さらに線量の高いところを経験しました。ダムから少し入ったところの山の斜面下の道路で、緩やかにカーブを描いている地点です。そこは、吹き溜まりになるところで地元の方の観測では、最高 $300\mu\text{sv/h}$ と聞き、全身に鳥肌が立ちました。実際私たちが測った時でさえ、軽く $200\mu\text{sv/h}$ を超えていたのです。そのような超ホットスポットは、近くに散在している可能性があります。カウンターのアラームは終始鳴りっ放し状態でした。山の向こうは浪江町赤宇木地区、事故直後高放射線量の中、何も知らなかった方たちが避難していたところです。

12月2日(日)、最高 $1.55\mu\text{sv/h}$ という放射線量の中、「野馬追いの里健康マラソン」が開催されると聞いて、「ふくいち周辺環境放射線量モニタリングプロジェクト」は、桜井市長以下南相馬市役所全ての部署、野馬追いの里健康マラソン実行委員会、テレビ・ラジオ・新聞などマスメディア、共催・特別支援企業などに観測結果を添えて、その危険性を知らせました。ところが、2500人もの人々が一同に走り、埃等を巻き上げ、確実に被曝をもたらすマラソンは強行されました。幼い子どもたちも走ったのです。

私は引き続きこのプロジェクトに参加していくつもりです。このプロジェクトの名称・世話人代表は、以下のとおりです。

「ふくいち周辺環境放射線量モニタリングプロジェクト」世話人代表 満田正 [td5ai3@bma.biglobe.ne.jp](mailto:td5ai3@bma.biglobe.ne.jp)

(報告：千葉県いすみ市 小林優子)

＜同志社小学校 5 年生 原子力発電についての特別授業を受けての感想（理事・小寺が講演を行いました）＞

◆放射能は人類にとってなくてもいいと私は思いました。私はこれから原発を新しく作ることに反対だし、原発を今、稼働させていることに反対です。だから、これからは風力発電や火力発電の時代にしていきたいです。◆僕らの世代が放射能を作ったわけじゃないのに、僕らの世代がなぜ被害にあわなければいけないのか。政治家の人は脱原発とか言ってるけど、何も進んでいない。他人事と思っているようにしかみえない。本当に「脱原発」と思っているのなら、自分の立場じゃなくて、ガチで考えてほしい。◆未来で原子力の処理をするのは今の子ども達です。もう少し、子どものことも考えてほしいです。子どもが意見を、生きるか死ぬかの大切な意見を言っているのに、それにちゃんと対応しないのは本当にひどいことだと思います。日本はいろいろな方法で電気は作れるはずですが、それなのになぜ作らないのか。それを大人達（政府）に聞きたいです。◆日本は地震大国だから海の中で、地震が起こり津波が来るのもわかったはずだ。ひと言でいうと未来を読めなかった日本の甘さだと思う。大人は子どもは関係ないと思う。でも、次は子どもの世代だから未来も考えて原発を作ってほしかった。◆チェルノブイリの子の絵にもあったように、事故を起こす前は、光かがやいていた世界が、雨のふる暗い世界に一瞬でなってしまう。それくらいショックなんだろうなと思いました。2030 年原発がすべて停止するといっているけど、遅いと思います。そしてこれからは、ちゃんとした安全な発電で、みんなが安全に暮らせるようにしたいと思います。◆おばあちゃんが福島に住んでいるので、チェルノブイリのようにならないように願いたい。そして、原発ではなく、ソーラーパネルをとりいれたらいいと思った。



＜カレンダー購入者からのメッセージ＞

◆福島県の隣県にすんでいるので、子どもたちのことはいつも気がかりでした。少しでも募金が子どもたちのお役に立てればと思います。（栃木県 S さん）◆いつまでも続く、チェルノブイリ原発事故の影響により、苦しんでいる子ども達のために。（埼玉県 Y さん）◆核燃料サイクルが世界中でストップすることを強く念ずる者です。（東京都 T さん）◆チェルノブイリの子とも福島の子ともが重なり、いつも以上に真剣に読んだ号でした。すこしでもお役に立ちたいです。（岐阜県 H さん）◆2013 年のカレンダーの絵は明るい色彩のものが多く感じられました。写真の子どもたちの表情も穏やかです。子どもたちが心に希望を持ち、笑顔になれる時間がたくさん持てることを願っております。（愛知県 S さん）◆カレンダーを捧げ持つと、地球一つ分の重さを感じました。私をみる子どもたちのまなざしのなかに、全人類の深い悲しみ、絶望、苦しみ、大人社会に対する得体の知れない不信感を感じ取ることができます。ひとりの大人としての責任を感じます。やがて無力感に苛まれます。最後ページにはたくさんの子どもの笑顔があります。何の因果でしょう。このような、いわれのない過酷な環境下に置かれていながら、地平線の彼方から昇る旭のように、その笑顔の中に生きようとする力を感じ取ることができます。それは、見る人に生きる勇気を与えてくれる笑顔です。生きるということは、原発・核兵器をこの世からなくしてゆく方向に進路をとるということにつながってゆきます。（東京都 K さん）◆これらの事故が風化されないために私達ができる事を続けて行かなければならないと思っています。世界中の温かい心が集まり大きな支援になるよう願っています。（静岡県 Y さん）◆忘れてはいけない 2 つの事実、気の長い支援が必要ですね。心より賛同いたします。（兵庫県 S さん）◆日本中で、いや世界中で連帯の輪が広がりつつありますね。それぞれ自分たちの立ち位置で、頑張りたいと思います。（山口県 K さん）（15 ページへ続く）

# 募金・救援状況

## ●募金状況 2012年9月～11月

(単位:円)

|             | 9月        | 10月        | 11月     |
|-------------|-----------|------------|---------|
| 募金件数        | 35件       | 304件       | 180件    |
| 救援寄付金       | 167,457   | *3,646,416 | 534,999 |
| 保養費         | 15,000    | 115,550    | 133,750 |
| 特別保養費       | **902,517 | 175,000    | 35,000  |
| 里子支援        | 13,080    | 43,970     | 144,820 |
| 医療機器支援      | 5,000     | 1,000      | -       |
| ニュース購読費     | 6,000     | 102,000    | 40,000  |
| 26周年イベント賛同金 | -         | 3,000      | -       |
| 合計          | 1,109,054 | 4,086,936  | 888,569 |

\*匿名の方よりの募金3万ドルを含む

\*\*パルシステム東京・平和カンパ

☆ほかには現物寄付(テレホンカード、切手・図書カード)42,170円分

## ●救援状況 2012年9月～11月

(単位:円)

<ウクライナ>

### ◎内分泌研究所

医薬品 505,500

放射性ヨード体内残存量測定器 303,300

## ♥募金団体名一覧♥(順不同・敬称略)

紙面の都合上、個人名は省略させていただいております。ご寄付をいただいたみなさまに心より感謝申し上げます。

### 【9月】

トランスフェリックマネジメント/(株)ジョイメイト/  
パルシステム東京 平和カンパ/(有)せき自動車工業

### 【10月】

カトリック徳田教会/ピースライブ イン こうち/  
東用堂治療院/自治労横浜総務支部/トランスフェリックマネジメント/(株)ジョイメイト/  
ヒーリング・スペース・レイ/照恩寺

### 【11月】

真宗大谷派 高德寺/実教出版放射能倶楽部/(株)ジョイメイト/恵泉女学園中学・高等学校 文化祭委員会/埼玉東部法律事務所/  
日本キリスト教団 神奈川教区核問題小委員会/トランスフェリックマネジメント/ぐりんぴーす

~~~~~

《チェルノブイリの歌声②》(14ページより続き)

◆チェルノブイリ、福島が、近い将来、世界でもっとも美しい村となる日を心からお祈りします。そしていつか、美しい村サミットを開催できるまでになってほしいです。子どもたちが澄み切った空気の中で、おもいっきり笑える日がきますように…(北海道 Tさん) ◆先日某テレビ局の番組でチェルノブイリにともない子どもたちにおきている深刻な状況を知りました。ショックでした。やはり福島の子どもたちは疎開させたほうがいいですね。(新潟県 Kさん) ◆神戸新聞で見ました。この夏はナターシャ・グジーさんの歌を聞きました。チェルノブイリの事故の時は、原発の怖さを理解していませんでした。ほとんど何も行動しませんでした。とても悔いています。今回、とても小さいですが、支援になればと思います。(兵庫県 Nさん) ◆事故が起きてしまえば、二度と元に戻ることはなく、子どもたちの健康は常におびやかされる。そんな当たり前のことを繰り返してしまった人類の愚をなさけなく感じます。それでも未

来を生きなければならない子どもたちに何とか希望を託したい。(香川県 Aさん) ◆福島原発から離れたところに住んでいると放射能汚染に対する切実さが薄く、私の子どもと同じ年頃の子ども達が被曝し続けている現状が現実のものと思えません。でも実際に、体に異常を訴える人がますます増えてくるのでしょう。日々の生活に追われてチェルノブイリや福島のことを忘れないように、家に掛けておきたいと思います。友達にもプレゼントしようと思っています。日本のどの原発も爆弾を抱えている現状は当分変わりません。残念ながら明日はわが身です。子ども達に希望ある未来をバトンタッチしたいのに。漂泊しているような心持になります。(愛知県 Nさん) ◆フェイスブックを通じ、先日初めてこちらの活動を知りました。同じ子を持つ親として、この事実を風化させてはならないと感じ、周りの方々にも広めたいと思っております。(山梨県 Sさん)

事務局から

■ボランティア募集

◎事務局では、毎月第1・3土曜日の午後1時半～5時、ボランティアの方に事務作業などを手伝っていただいています。少しの時間でも歓迎です。

◎ニュース発送作業(年4回:3・6・9・12月)

次回 日時:3/16(土)午後1時～4時頃まで

場所:東京ボランティア・市民活動センター
(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10 階)

※日程が変更になる場合もありますので、ボランティア参加希望の方は、前日までにご連絡ください。

【問い】平日午前10時～午後5時 留守の場合は伝言をお願いします。T&F 03-5228-2680

■「基金ニュース」について

募金をくださった方には、使途の報告としてニュースレターをお送りしています。また、ニュースレター購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。

■2013年カレンダーは、12月初旬に完売しました。ご購入いただいたみなさま、ありがとうございます。また、ご注文いただきながらお届けできなかったみなさまには、本当に申し訳ございませんでした。

■2013年4月チェルノブイリ27周年イベント「チェルノブイリと福島」

4/8(月)～4/10(水) 絵画展 「チェルノブイリと福島の子どもたちが描いた絵」

場所:文京シビック1F 展示室2

時間:10時半～20時(予定)

4/26(金)講演会 「チェルノブイリと福島」

☆木村真三氏(決定)／独協医科大学準教授、国際協力支援センター国際疫学研究室 福島分室 室長
☆広河隆一氏(予定)／フォトジャーナリスト、DAYS JAPAN 編集長

場所:文京シビック 小ホール

時間:18時半(予定)

■マクシンスキー特別講演 福島の子どもたちと共に生きる「チェルノブイリから学ぶ福島の子どもの保護」

開設当初から子ども基金が支援をしているベラルーシのサナトリウム「希望21」所長のマクシンスキー氏が来日します。このニュースレターが届く頃には12/16(日)の東京公演は終了していますが、いわき、京都での講演が引き続き行われます。ぜひご参加ください。

【いわき講演会】

日時:2012年12月17日(月)18:00(開場17:30)

場所:いわき芸術文化交流館アリオス 大ホール・サロ

参加費:500円 *託児所利用希望者のみ要予約

問:tarachine@bz04.plala.or.jp(鈴木)FAX 0246-92-2526

【同志社大学(京都)講演会】

日時:2012年12月19日(水)18:30—21:00

場所:同志社大学 新町キャンパス・臨光館201教室(R201)

資料代:500円 予約不要

問:浅野健一研究室 Tel.075-251-3411(社会学部事務局)

asanokenichi@nifty.com

いつもあたたかいご支援をありがとうございます。
振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせと
願います。

すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

払込取扱票のお名前・ご住所は楷書でご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収書が入り用の際はお申し出ください。

●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年4回発行●

〒162-0816 東京都新宿区白銀町25 メゾンド原207号室 Tel/Fax 03-5228-2680
ウェブサイト=<http://www.smn.co.jp/chno/index.html> e-mail: chno1986@tokyo.email.ne.jp
事務局ブログ ◇神楽坂事務局だより <http://blog.goo.ne.jp/chno1986jimukyoku/>
※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。